

2025年度 郁文館高等学校 グローバル高等学校 一般入試「国語」 出題意図

大問一 文学的文章（批評的自伝）

出典 四方田犬彦『ハイスクール1968』（新潮社）

・問題全体

著者が高校時代に出会った一風変わった教師との思い出を回想する場面。登場人物の心情の機微を解することはもちろん、学校という場所がいかなるものか、教師からの「学び」の大切さを理解し、小説・詩歌・絵画・音楽などの芸術に対する興味・関心を持つ生徒を求めたい。

・個別問題

問一 文学史の出題。

問二 語彙力を問う問題である。

問三 漢字の出題。

問九 文学の本質を問う記述問題で、異なる時代を生きる中学三年生には何の話だと言いたくなるような問題である。現代から異なる時代の文学を比較する問題で、受験生の国語力全体を問う問題である。

大問二 説明的文章（経済論）

出典 宇沢弘文『経済学は人びとを幸福にできるか』（東洋経済新報社）

・問題全体

自然環境の利用に関して経済学的に考察する際に、留意しなくてはならないのは、自然環境に対して、人間が歴史的にどう関わってきたかだ、という筆者の考えを理解できるかを問い合わせ、経済的な関わりと文化（宗教）的な関わりについて考えさせたい。

・個別問題

問一 漢字の書き取り問題で、難解な「乖離」の読みを出し、受験生の実力を問うた。

問二 接続語の問題である。全問正解を期待したいところである。

問四 記述式の問題であるが、本文全体が中学生には難解なものであり、言い換えの箇所を探し出す問題である。

問六 伝統社会の宗教とのかかわりという概念が、中学三年生には相当難解であるが、SDGs的環境論を考える際には必須のものである。